

# 大阪府立阪南・岬自然公園

## 指 定 書 (案)

# 目次

1	指定理由	1
2	地域の概要	1
(1)	景観の特性	1
ア	地形・地質	1
イ	植生	1
ウ	野生生物	2
エ	人文その他の特殊景観	3
(2)	利用の現況	4
(3)	社会経済的背景	4
ア	人口・産業	4
イ	権利制限関係	5
3	公園区域	6

## 1 指定理由

大阪府においては、大阪平野を囲むように、北摂、金剛生駒、和泉葛城の三つの山系が分布し、その面積は、府域の約3割を占め、都市にうるおいをもたらす重要な役割を果たしている。

これらの山系については、明治の森箕面国定公園、金剛生駒紀泉国定公園、大阪府立北摂自然公園が指定されているとともに、ダイヤモンドトレールやおおさか環状自然歩道、近畿自然歩道等により連結され、一体的に保全・利用が図られている。

泉南西部地域に位置する阪南市及び泉南郡岬町の森林は、和泉葛城山系の西端部にあたり、府内では唯一海浜部と近接する山系であり、府域では稀な暖地性の樹種を含め多様な植物が生育するとともに、紀泉高原自然休養林の広葉樹林は、自然性の高い植生景観がみられるなど、多様な森林が育まれている。また「鳥取ダムと紀泉高原自然休養林」は大阪みどりの百選にも選定されており、こうした自然性の高い森林と水系が一体となった森林美は貴重で保全の必要性が高い。

地域一帯は、標高約200m～400m程度の低山でありながら、山頂周辺からは、大阪湾や遠く阪神地域、六甲山系、淡路島、紀淡海峡や四国を望む良好な眺望が得られる。また、一帯には紀州（熊野）街道や井関越街道などの歴史的街道や役行者が開祖とされる修験道等、往時を偲ばせる数多くの史跡や史実が残されている。これらの歴史的街道や修験道は、周辺の主な峰と阪南市や岬町、和歌山市の市街地方面を結ぶハイキング・登山ルートの一部となり、要所には鳥取池緑地桜の園（阪南市）や宿泊が可能な青少年の森キャンプ場（岬町）などの整備がなされ、歴史的な価値を有する地域であるとともに、都市近郊の身近な自然としても親しまれている。

阪南・岬地区の森林はこうした多様な自然環境や景観資源を有しているが、現在、自然公園や自然歩道整備の空白地域となっており、暖地性の常緑樹林や自然性の高い自然休養林の植生、大阪湾等を見渡す優れた眺望を有する山地として保全を図るとともに、北摂から生駒、金剛、和泉葛城山系を経て、瀬戸内海国立公園を接続する自然公園として、大阪府を取り巻く山系の自然環境価値を高めていく必要がある。このため、当該地域において大阪府立自然公園を新たに指定することとし、優れた自然景観の保護と適正な利用の促進を図り、もって、大阪府のみどりの骨格である森林地域の一体的な保全・整備の推進を図るものである。

## 2 地域の概要

### (1) 景観の特性

#### ア 地形・地質

阪南・岬地区の森林は、紀伊半島を横断する中央構造線の北側に位置し、和泉山地西端部の中小起伏山地で構成される。

主な峰は、雲山<sup>うんざんぼう</sup>峰、俎石山<sup>まないたいしやま</sup>、大福山、飯盛山<sup>ふだたてやま</sup>、札立山、四国山、高森山<sup>たかもりやま</sup>などであり、飯盛山以外は、大阪府と和歌山県のほぼ府県境に位置し、大阪平野と和歌山平野の分水嶺を形成している。最高峰は標高490.2mの雲山<sup>うんざんぼう</sup>峰であり、400mを超える峰は俎石山、大福山で、他は200m級～300m級の山々である。これらの中起伏山地の山並みは、眺望の良い山歩きを楽しめることから紀泉アルプスと称されている。第3回自然環境保全基礎調査の自然環境情報図では、非火山性孤峰（山脈・山地に含まれない孤立峰。比高100m以上でランドマーク的

なもの)として、俎石山、飯盛山、平山があげられている。

地質は、和泉層群に属し、中生代白亜紀(約7000万年前)に中央構造線に沿って横ずれ断層運動が生じ、その結果生じた窪地(盆地地形)に砂岩、泥岩、礫岩などが順次互層に堆積している。

#### イ 植生・植物相

早くから文化の栄えた本地域は、生活用・農耕用さらに工業用に山間部の木材や落葉・落枝、柴草を利用してきた。このため、近世から昭和前期まで草木がなく地肌が露出した山が広がっていた。戦後、復旧造林としてマツ等が植えられ、クロマツやアカマツが優占する森林が形成された。

しかし、昭和50年代以降、マツ枯れの拡大により多くのマツは枯損し、現在の植生は、尾根部のアカマツ林を除くと、山腹斜面を中心にコナラが優占する落葉広葉二次林が広がるほか、谷部などにスギなどの常緑針葉樹人工林が見られる。なお、多くのコナラ林ではソヨゴ、ヒサカキなどの常緑広葉樹が混生しているほか、ウバメガシなどの暖地性の常緑広葉樹が多く生育する樹林も随所に見られる。

植物相としては、コナラ、モチツツジなど近畿地方の落葉広葉二次林を構成する一般的な植物種を主体とするが、暖地性の植物や高標高帯に生育する植物種群も見られる。これらは、黒潮が流れる太平洋の沿海部に近い地域であることや、高標高の和泉葛城山から連なる山地であることが要因であり、本地域の自然環境の特徴をあらわしている。暖地性の植物種としては、ホウライカズラ、クスドイゲ、リュウキュウマメガキ、ノグルミなどが生育し、主に俎石山や大福山の西側斜面で見られる。またやや高標高帯の植物種としては、アカガシ、ウリハダカエデ、ゴトウヅル、クマノミズキなどが生育し、主に飯盛山山頂などで見られる。これらの植物種群は分布的あるいは希少性から保全上重要であり、ホウライカズラは準絶滅危惧種(レッドデータブック近畿)、クスドイゲは要注目種(大阪府レッドデータブック)に選定されている。国有林では戦前からの広葉樹林が維持されており、次の野生生物の中で記述するように、食物連鎖の頂点に立つ鳥類が多く確認されていることは、本地域の森林が豊かな生態系を有することの現れであり、自然性の高い地域として重要である。

#### ウ 野生動物

本地域は、大阪平野の南端と和歌山市側の紀ノ川沿いの平野部に挟まれた東西に細長い山地部であり、野生動物の生息種は里山にみられる種が中心である。

鳥類は府下に生息する約300種のうち、その40%以上の種が確認されている。そのうち、紀泉高原では72種の鳥類が生息しており、その中には絶滅危惧ⅠB類(EN)のクマタカ、絶滅危惧Ⅱ類(VU)のサシバ、ハヤブサ、準絶滅危惧(NT)のミサゴ、ハチクマ、オオタカ、ハイタカ(以上、環境省レッドリスト)が含まれる。また、岬町では、オオタカ、クマタカの繁殖記録があり、両種とも丘陵から山地のマツなどの高木に営巣する種であり、尾根沿いなどに残るマツなどの高木はこれらの生息に重要な営巣環境を提供している。

昆虫類は、岬町の河川にゲンジボタルが生息し、山間部の尾根筋にはハルゼミが生息している。両種は、分布域が広く良好な自然環境の指標となる「指標昆虫」に選定（第2回自然環境保全基礎調査 環境庁）されており、ゲンジボタルは低山地～山地の溪流、ハルゼミはマツ林の環境を指標する。また、ゲンジボタルは、里山の開発や河川整備・護岸、水質悪化などにより府内では減少傾向にあり、要注目種（大阪府レッドデータブック）とされている。

ほ乳類はキツネ、タヌキ、イノシシの生息が、現地で実際に木の実を採取するために地面を掘り返した跡や、糞などのフィールドサインによって確認された。

魚類については、泉南地域にはオイカワ、カワムツ、タモロコ（大阪府レッドデータブック：要注目種）が広く生息し、男里川にはギンブナ、ヨシノボリが生息している。番川にはカワムツ、ヨシノボリが、大川にはカワムツが、西川にはオイカワの他にアユが生息している。

## エ 人文その他の特殊景観

地域内には、歴史的な街道や修験道が残り、「井関越街道」は阪南市尾崎を起点に黒田、石田を抜け、波太神社を通り、井関峠を越えて和歌山に至る街道で鳥羽伏見戦争のとき、多数の会津藩敗残兵が紀州藩を目指し、この街道を通り抜けた。沿道添いの家々では、戸を閉ざし、息をひそめて待つ者や、荷物をまとめて山中へ避難する者が多く、また、途中傷が悪化し、力尽きて死んだ落ち武者を、桑畑の村民が手厚く葬ったという話も残っている。

「紀州街道」は山中溪やまなかだにを通り、雄ノ山峠を越え、和歌山へ抜ける道で、近世期以降紀州藩の参勤交代のため整備された。この道は、古代に難波、奈良の都と紀伊国などを結ぶ「南海道」として成立し、平安時代以降熊野詣が盛んになると天皇や公家たちの参拝所兼休憩所が、山中溪にも2ヶ所設けられ、「熊野街道」と呼ばれていた時期もあった。

「孝子越街道」は泉南市を過ぎたあたりから、海に沿って進み、孝子峠を越えて和歌山へと向かう街道である。

7世紀頃に役行者が開いたとされる修験道の「葛城二十八経塚巡行」は、二ノ宿峠から孝子を経て飯盛山、札立山、大福山を通って滝畑に続いており、登山道沿いにも経塚巡行を示す標識があり、ルートが保存されていると共に、行場跡などの史跡や石碑が残されている。

札立山は江戸時代には上方（大阪）の市場相場を紀州藩に伝えるための飛脚のルートに当たり、和歌山への最後の中継点であったとされている。

明治以降、岬町から阪南市にかけての稜線部は旧日本軍が築いた由良要塞地帯に指定され、一時期は立入禁止区域となっていた時代があった。現在、当時を偲ぶものとして、石碑が俣石山付近に残されている。

国有林である紀泉高原自然休養林は、林野庁が「人と森林とのふれあいの場」として全国の国有林 89 箇所に設定した「自然休養林」であるとともに、大阪府は、「鳥取ダムと紀泉高原自然休養林」として大阪みどりの百選に選定している。紀淡海峡を隔て淡路島・六甲山系を望む眺望が見所であり、自然休養林の森林とその木々の中に静かにたたずむ鳥取池が神秘的で美しい景観を呈している。孝子地区は大阪市自然史博物館が発刊している「自然観察地図」で南大阪の18コースのうちの一つに選ばれており、府下では南部にしか見られない暖

温帯のバクチノキやタイミンタチバナや海岸性のヒメユズリハ、トベラなど植物が紹介されている。

この他、JR 山中溪駅付近には約 1,000 本のソメイヨシノが植えられており、鳥取池緑地桜の園でもサクラがみられる。また、淡輪<sup>たんのお</sup>地先（林道本谷線）には地元小学校の卒業生が植林し在校生や父母など地域の人々により守り育てられている学校林、地元の愛好家などによって整備されている孝子の森、さらに俎石山付近では小学校の卒業記念植樹がされている。

## (2) 利用の現況

当地域の主な利用形態は登山、ハイキングが中心である。利用の基点としては、山中溪駅、みさき公園駅の他、阪南スカイタウンなど多くの登山口があり、和歌山側を含め、各登山口を結ぶ多様なルート設定が可能である。これらの登山口からの山道は、年間を通じて利用されており、道標やベンチなどは地元市民団体などによって設置されている。また、阪南スカイタウンの登山口は広い駐車スペースがある。

四国山、高森山は和歌山市側の森林公園と連続した利用が行われており、登山道を中心とした利用がみられ、四国山には展望台が整備されている。

キャンプ場は岬町内に 1 箇所あり、現状ではボーイスカウトなどの利用が中心となっている。

## (3) 社会経済的背景

### ア 土地所有別

本公園区域内の所有別面積は、国有地 2 8 1 h a（2 9. 7 %）、公有地 6 3 4 h a（6 6. 9 %）、私有地 3 2 h a（3. 4 %）、であり、国有地・公有地の占める割合が大きい。

（単位：ha）

市町村名	国有地	公有地	私有地	合 計
阪南市	1 6 8	2 7 3	3 1	4 7 2
岬 町	1 1 3	3 6 1	1	4 7 5
合 計	2 8 1	6 3 4	3 2	9 4 7

イ 人口及び産業

① 人口

本公園区域関係市町における人口の推移は次のとおりである。

(単位：人)

市町村名	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年
阪 南 市	58,193	57,616	56,663
岬 町	19,789	18,504	17,509
合 計	77,982	76,120	74,172

注) 人口は、国勢調査に基づく

② 産業

関係市町における産業別の就業人口は次のとおりである

(単位：人、%)

	第一次産業		第二次産業		第三次産業		就業者総数
	人 口	構成比	人 口	構成比	人 口	構成比	
阪南市	444	1.8	6,510	26.1	17,565	70.3	24,979
岬 町	225	2.9	1,643	21.3	5,735	74.3	7,720
合 計	669	2.0	8,153	24.9	23,300	71.3	32,699

(平成 17 年国勢調査) ※就業者総数には「不詳」も含むため、内訳を合計しても総数には一致しない。

ウ 権利制限関係

① 保安林 (公園区域内)

(単位：ha)

市町村名	水源かん養	土砂流出防備	土砂崩壊防備	保 健	風 致	防 火
阪南市	95	178	0	107	0	0
岬 町	29	92	0	4	0	0
合 計	124	270	0	111	0	0

② 鳥獣保護区 (公園区域内)

名 称	位 置	重複面積	指定年月日
紀泉高原	阪南市	192 ha	H12.11.1

③ 埋蔵文化財（公園区域内）

種類	名 称	位 置
埋蔵文化財	千間寺跡 (飯盛城跡)	岬町淡輪

3 公園区域

大阪府立阪南・岬自然公園の区域を次のとおりとする。

市町名	区 域		面積 (ha)
阪 南 市	山中溪地区	桑畑の一部	1 5 4
	紀泉アルプス東地区	桑畑の一部	3 1 8
	計		4 7 2
泉南郡岬町	紀泉アルプス西地区	淡輪と深日の各一部	4 0 1
	高森山地区	多奈川谷川の一部	7 4
	計		4 7 5
合 計			9 4 7

地区名	概 要
山中溪地区	雲山峰縦走コースが整備され第一パノラマ台から大阪湾や周辺の山並に向けた良好な眺望景観が得られる。
紀泉アルプス東地区	紀泉高原自然休養林の阪南市域部分を中心とする地域で南側は和歌山県に接し、地区内には紀泉アルプスと称される俎石山や鳥取池がある。自然休養林の美しさや、山頂や尾根からの素晴らしい眺望景観など、山自体の存在感と自然景観の良さを特徴とし、阪南スカイタウンから俎石山、紀泉アルプス西地区の大福山を利用する動線が多く利用されている。
紀泉アルプス西地区	飯盛山と紀泉高原自然休養林の岬町域部分を中心とする地区であり、山頂から大阪湾や周辺の山並に向けた良好な眺望景観が得られる。最寄のみさき公園駅を基点とし、飯盛山と、大福山や紀泉アルプス東地区の俎石山等を結ぶ動線が多く利用されている。
高森山地区	高森山は大阪平野を取り巻く山地の最南西端に位置し、紀淡海峡から四国方面の眺めのすばらしさが特徴的である。利用面では、稜線に登山道が整備されている。



【参考資料】

大阪府立阪南・岬自然公園内生息・生育レッドリスト種一覧表

大区分	小区分	カテゴリー	種名
動物	鳥類	絶滅危惧 I B 類 (EN)	クマタカ <i>Spizaetus nipalensis orientalis</i>
		絶滅危惧 II 類 (VU)	サシバ <i>Butastur indicus</i>
		絶滅危惧 II 類 (VU)	ハヤブサ <i>Falco peregrinus japonensis</i>
		準絶滅危惧 (NT)	ミサゴ <i>Pandion haliaetus haliaetus</i>
		準絶滅危惧 (NT)	ハチクマ <i>Pernis apivorus orientalis</i>
		準絶滅危惧 (NT)	オオタカ <i>Accipiter gentilis fujiyamae</i>
		準絶滅危惧 (NT)	ハイタカ <i>Accipiter nisus nisosimilis</i>

大阪府立阪南・岬自然公園内生息・生育近畿地方レッドデータブック種一覧表

大区分	小区分	カテゴリー	種名
動物	鳥類	絶滅危惧	ミサゴ <i>Pandion haliaetus haliaetus</i>
		準絶滅危惧	オオタカ <i>Accipiter gentilis fujiyamae</i>
		準絶滅危惧	ハヤブサ <i>Falco peregrinus japonensis</i>
		要注目	ハイタカ <i>Accipiter nisus nisosimilis</i>
植物	植物	準絶滅危惧	ホウライカズラ <i>Gardneria nutans</i>

大阪府立阪南・岬自然公園内生息・生育大阪府レッドデータブック種一覧表

大区分	小区分	カテゴリー	種名
動物	鳥類	絶滅危惧 I 類	クマタカ <i>Spizaetus nipalensis</i>
		絶滅危惧 II 類	オオタカ <i>Accipiter gentilis fujiyamae</i>
		準絶滅危惧	サシバ <i>Butastur indicus</i>
		要注目	ミサゴ <i>Pandion haliaetus haliaetus</i>
		要注目	ハヤブサ <i>Falco peregrinus japonensis</i>
		要注目	ハイタカ <i>Accipiter nisus nisosimilis</i>
植物	植物	要注目	クスドイゲ <i>Xylosma congestum</i>

※確認種の出典は以下の通り。

クマタカ、サシバ、ミサゴ、オオタカ、ハヤブサ、ハイタカ、ハチクマ

「紀泉高原鳥獣保護区指定調査報告書」(平成 21 年度、大阪府環境農林水産部) に基づく。

ホウライカズラ、クスドイゲ

「岬町の植物」(泉南自然同好会) に基づく。